

京都・中海道遺跡

なかかいどう

- 1 所在地 京都府向日市物集女町中条
- 2 調査期間 一九九二年(平4)六月～七月
- 3 発掘機関 向日市埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 秋山浩三
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 旧石器時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部)

中海道遺跡は向日丘陵の東斜面に立地し、遺跡内には、中世の土豪物集女氏の城館である物集女城跡を含む。中海道遺跡第二二次調査地(3NNANK-21)は、物集女城跡の北濠に外接した地点にあたり、住宅建設に伴う事前調査として実施した。

調査の結果、古墳時代前期から近世におよぶ遺構を検出した。なかでも、一四世紀を中心とする諸遺構は、

物集女城の構築に先立つ時期にあたり、本遺跡内での中世集落の成立、展開を追究するうえで貴重な資料となる。

今回報告するのは墨書のある人形で、一四世紀の石組井戸SE二一〇の埋土下半部から一点出土した。井戸は、人頭程度の石を平面円形に積み上げたもので、内法で直径約〇・九m、深さ約一・四mを測る。底面には、直径約四五～五〇cm、高さ約二三cm程度の、底板を取りのぞいた曲物を二重に据える。

8 木簡の积文・内容

(1)



(183)×14×4 061

人形は、残存長一八・三cm、最大幅一・四cm、最大厚〇・四cmの板状品で、正面観を表現する。頸部には左右からの切り欠きが見られるが、肩部以下は破損が著しい。墨書も遺存状態が甚だ不良で、表面最下端にからうじて一部が認められる程度である

(秋山浩三・清水みき)